

3月の学習会の案内

平成27年3月20日

だんだんと春めいた気候となってきました。先生方には、学期末のお忙しい時期をお過ごしのことと思います。早いもので本年度も最後の語る会となりました。今回は、長らく続いた附属小学校シリーズをめでたく？離れまして、教材研究の会を行います。取り上げるのは、新しい光村図書の6年の教科書で新出の説明文です。語る会では、このところ説明文の授業をおもしろ見つけや丸ごと読みの観点から、あるいは、その説明文の学習から得られる方法知といった観点から探ってきています。今回もその流れによって教材研究を進めていければと考えています。間もなくやってくる1学期の新学習材です。多くの先生方にお集まりいただくことで、多面的な分析ができればと思います。よろしくお願ひします。

日 時	平成27年3月28日(土) 9:30~12:00
場 所	岡山大学教師教育開発センター 東山ランチ2F 授業研究室 TEL(086)272-0511 FAX(086)271-3455
連絡先	小出 真規(こいで まさき) TEL 090-5704-7339 m-koide@okayama-u.ac.jp(学校パソコン) 変更中(携帯メール)
内 容	「時計の時間と心の時間」光村図書6年(1学期新学習材) 教材研究を中心とした会になる予定です。
<お知らせ>	
※ <u>駐車場について</u> 東山ランチの駐車場をお使いください。	

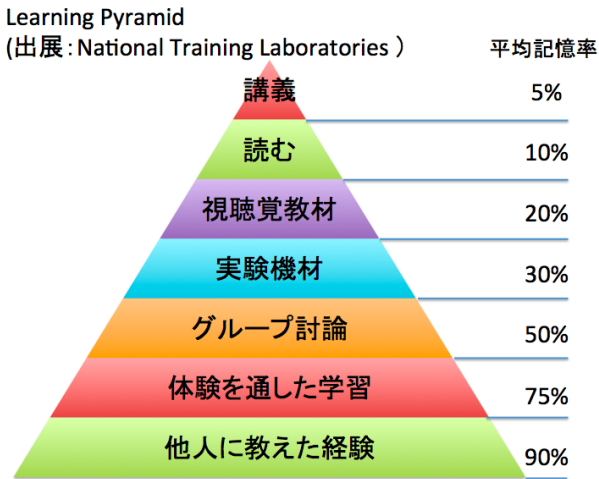
2月の学習会の報告

文責 難波

2月の語る会は、岡山大学附属小学校の難波が11月に行った研究会での授業報告をさせていただきました。

赤木先生より

○学習のピラミッドというものがある。(下記の図参照) 平均的な学習内容の定着率を表したピラミッド。



講義形式の学習方法よりも、参加型の学習方法の方が圧倒的に定着率が高いのがわかる。大学の授業改善をはかる上でも、参加型の学習を取り入れていきたいと考えている。例えば、レポートを提出する際に、4人程度の学生で見合う時間を設け、見直しの視点をもつようにする。自分がそのレポートで何を伝えようとしているのか、伝えやすくするためにどんな書き方をするのがいいのか、学生同士でチェックして批正する過程を経る。このようにすることで、レポートの内容の質が高まり、学生にも好評である。これからいかに参加型の授業をつくっていくかが重要になってくる。

難波より 実践報告 (詳細は当日配布した資料をご覧ください。)

ださい。)

- ① 単元名 考えよう！筆者が伝えたいことって？ (第5学年)
- ② 単元目標
 - 科学技術の進歩や気象の変化による自然災害などの説明の内容に関心をもち、筆者の主張について考えようとしている。(関心・意欲・態度)
 - 文章構成や筆者の主張の根拠となる資料や言葉に着目して読み、科学的な情報だけに頼るのではなく、自分で判断して行動することの大切さについて考えを深めることができる。(読む能力)
 - 文や文章にはいろいろな構成があることを理解し、意見文の文章構成に着目しながら読むことができる。(言語についての知識・理解・技能)

③ 単元計画 (全9時間)

第一次

- 第1時 天気の話や空の写真を紹介した後、「天気を予想する」を読み、感想をもつ
- 第2時 感想の中から「筆者の伝えたいことを確かめよう」という学習課題をつかむ

第二次

- 第1時 科学的な技術の進歩と国際的な協力の実現について確かめる
- 第2時 突発的・局地的な天気の変化について確かめる
- 第3時 自分で天気を確かめるよさについて確かめる
- 第4時 文章全体や読みの手がかりを振り返りながら、筆者の主張を確かめる

第三次

- 第1時 読みの手がかりを使いながら『十秒』が命を守る」を読む
- 第2時 読みの手がかりを使いながら、筆者の主張について考えを出し合う
- 第3時 ワールド・カフェ方式の話合いで、筆者の主張に対する考えを深める

今回の語る会では、第三次3時の授業を中心に報告させていただきました。小学校と中学校とのつながりを考えた授業改善として、話し合い活動の充実を図るために、ワールド・カフェ方式の話し合いを取り入れ、筆者の主張に対する考えを深めていけるような授業づくりをしました。

(グループごとの発表)

●1グループ

- ・ワールド・カフェというのは、話し合う過程が大切なのだと思う。学力の高い子どもも、低い子どもも、どの子どもも保証できるようにしたい。めあてで話し合いの視点をしっかりとらえさせておくことが大切。
- ・考えが拡散していくという特徴もあるのではないかな。
- ・「～の手がかりを使うことで、筆者の～という主張が読み取れる」という読み方は保証することができるが、話す・聞くの力を活用しているような授業とも言える。
- ・中学校のラベリング(方法知)を意識して小学校段階から読みの手がかりのラベリングをしているということだが、今後もしっかり整理して、中学校へのつながりを図っていくことが求められる。
- ・ワールド・カフェ形式の話し合い活動が今後どのように発展していくか楽しみ。

●2グループ

- ・ワールド・カフェの活用場を検討することで、より可能性のある学習場面があるのではないかな。学ばせたいことをはっきりとさせることで、ワールド・カフェの魅力をもっと生かせよう。
- ・ワールド・カフェは、一人一人が責任をもって話し合う必要があるので、それが魅力。テーブルホスト(司会役)の力も広がっていくのでよい。
- ・読みの手がかりを大切に積み重ねていくことで、中学校にうまくつなげていけるのではないかな。

赤木先生より

- ・段差はなめらかにつなぐものなのか。一気に越えさせることも大事。
- ・小6と中1のギャップも大事にしたい。その中で、新しいことに喜びをもって取り組めるような子どもにしていきたい。
- ・附属中学校の特性を踏まえて、「～の読み方をしたから～が分かった」という読みを積み重ねていくことは意味のあること。日々の授業の中で取り入れていくべき。
- ・まとめに何を書かせるかもしっかり考えたい。本時の成果は何か、子どもにしっかり考えさせて書かせたい。
- ・今回の単元学習の姿として、第一次で「天気を予想する」の教材を読み、学習で身に付けた力を使って次の学習へと進めていき、第三次で「十秒が命を守る」を読み、力の活用を図ろうとする展開は良い。ワールド・カフェを取り入れることによって、話す・聞くの力も身に付けることができる。
- ・ワールド・カフェは、もともとはビジネス界で生まれた手法。黙っている人をつくらない、多様性を大事にする、というところを求めて生み出された話し合い形式。テーブル・ホスト役がその場を仕切ることで、話し合いが進んでいく。その他の人も司会役のスキルを学べたり、自分のグループで話し合ったことを次のグループに伝えるという責任感があるので話し合いに積極的に参加したりできる、という利点がある。
- ・ワールド・カフェをどのように活用していくのか、今後も考えていきたい。今回は、考えを拡散していく方向ではなく、文章を読むときに、「主張と説明をつなぐことで納得できる」ということを確かめるような方向に働きかけていた。一定の読みを保証できるように活用している。拡散型の場合は、「十秒は有効か」という視点で考えを膨らませていき、「トイレにいるときは～」「お風呂にいるときは～」など、十秒をいかに使うか、という多様な意見を生み出すときにワールド・カフェを使っていく展開が考えられる。
- ・今回のような参加型の授業をすることで、定着度は上がっていると言える。
- ・中学校のような「教えて考えさせる」というのも、メリットはあるが、小学校ではできない。子どもがそれを面白いと感じない。読むことで喜びや面白さを感じるという感性を大切に、そこから論理につなげていくことで、少しずつ読みの手がかりが身に付いていくのだと思う。